

Challenging

OTSUMA Ranzan



大妻嵐山
ここでなら
できそう。

Otsuma Ranzan Junior and Senior High School

Global Eco-Science School

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 558 0493-62-2281 大妻嵐山中学校高等学校 2021.2.1

【必勝! 頑張れ嵐山受験生】…受験シーズン真っ只中、今こそ不屈の精神を…

いよいよ受験シーズン真っ只中。国が進める「高大接続改革」のひとつで、「大学入試改革」の目玉とされている「大学入学共通テスト」が、1月16,17日の2日間にわたって実施されました。嵐山生も、これまで新入試対策に取り組んできた成果を如何なく発揮できたのでしょうか。

これまでの大学入試では、主に知識・技能が評価されるテストが実施されてきました。しかし、知識だけでなく思考力を問うことが求められるといわれている新大学入学共通テスト。これまでの大学入試センター試験との違いはどうだったのでしょうか。

共通テストでは、これまでの大学入試センター試験を引き継ぎながらも、「高大接続改革」や「大学入試改革」といったねらいに沿って設問や出題形式が見直されると言わ



れてきました。ざっと見てみると各教科とも設問は長い文章を読み込み、グラフや図と関連付けながら答えさせる内容が多かったと思います。確かな知識と技能を基にした思考力や判断力、表現力が問われる内容のようですが、地歴科などを見ると、まるで読解力を問うような問題文の内容(私見ですが)に感じられました。

いずれにしても、新入試問題に対応して高得点をとった生徒もいて、皆さんの頑張りをあらためて実感いたしました。これから、まだまだ続きます。コロナ禍の中でも、へこたれない不屈の精神で頑張れ、嵐山受験生。



【嵐山ひな祭り】…『お内裏様とおひな様 二人ならんで すまし顔』…

ひな祭りとは、女の子のすこやかな成長と健康を願う、3月3日の「桃の節句」の行事です。日本では平安時代に年中行事となり、江戸時代には少し変化して「五節句」という幕府公式の祝祭日になったそうです。

また、ひな人形には京都で作られる「京雛」と、関東で作られる「関東雛」があります。ちなみに、京雛は左側(向かって右)に男雛、右側に女雛が座り、目が細めのおっとりした目鼻立ち。一方、関東雛は右側(向かって左)に男雛、左側に女雛で、はっきりめの目鼻立ちが特徴のようです。そこからすると、嵐山のお雛様は、どちらかはわかりでしょう。もちろん現代ではどちらでも、好みで自由にできますようですが…。



こうしたひな祭りの起源は「流し雛」と「ひいな遊び」の2つが結びついて生まれたと考えられているようです。そもそも、「流し雛」とは？どんなものなのでしょう。平安時代には、田植えの季節が始まる直前の時期に当たる、3月3日の「上巳の節句」に合わせて身の穢れを払うために、自分の身代わりとなる「紙の人形」をお祓いて、

川に流して清めるという風習があったようです。現在でも奈良県の吉野川流域などで「流し雛」の行事が行われています。

一方、ひいな遊びとは？ 平安時代の貴族社会で、小さな女の子たちが紙などで作った人形は「ひいな」と呼ばれ、その人形を使った遊びを指して「ひいな遊び」と呼んでいたそうです

いずれにしても、これを機に「ひな祭り」を十分理解することで、皆さんの健やかな成長をより一層祈念する日としたいですね。



【埼玉県英語劇発表会 上川杯受賞】

～キャリアスタディ同好会の受賞おめでとうございます～



11月11日、本校のキャリアスタディ同好会 英語劇部が「第55回埼玉県高等学校英語劇発表会」に参加し、上川杯(2位)を受賞しました。

そもそも、高等学校英語劇発表会は埼玉県高等学校英語教育研究会の英語劇部が主催する発表会です。出場校は、数が少ないものの川越女子高校、春日部女子高校、蕨高校、不動岡高校、和光国際高校など外国語科などを要する県内英語教育をリードするそうそうたる学校が出場します。

こうした強豪ぞろいの中での2位。快挙と言えるのではないのでしょうか。演目は清水邦夫氏の戯曲『楽屋』。4人で40分間、長い独白が多く、場面展開なしの演技は審査員の先生方からも多くのお褒めのお言葉をいただきました。

【おめでとう！『埼玉の建設産業』ポスター・絵画コンクール入選】

第42回『埼玉の建設産業』ポスター・絵画コンクールにおいて、本校の中学1年生原島さんと山口さんが受賞しました。おめでとうございます。

この埼玉の建設産業』ポスター・絵画コンクールは、埼玉県建設産業団体連合会が次世代を担う児童・生徒の創作活動を通じて、安全安心な社会をつくる建設産業の重要性や魅力をアピールし、広く県民に理解と協力を求めることを目的として、実施しているものです。

今年で42回目を迎えるこのコンクールも年々応募者数が増え、レベルの高い作品ぞろいで審査にあたった先生方も苦労が多かったそうです。嵐山生たちも、これを機にいろんなコンクールに是非チャレンジしてみたいかがですか？



埼玉県建設産業団体連合会会長賞金賞
原島 実来(中学1年)
「大切な街をつくる建設産業」

【審査員講評】

いろいろな道具を使いながら、細部まで丁寧に時間をかけて描かれています。作品からは、建物のスケールの大きさと重機の存在感が伝わってきます。



銀賞 山口 陽菜
「作ろうよ 人を守る建設産業」